

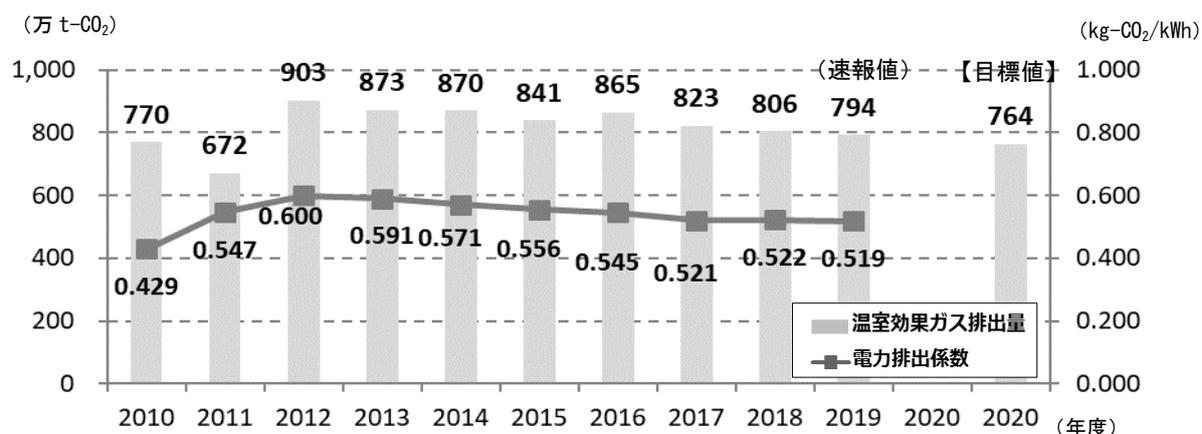
## 「杜の都環境プラン」 定量目標の実績の推移について

「杜の都環境プラン」（計画期間：2011 年度～2020 年度）における定量目標の取り組み状況の推移は下記のとおりである。

### ① 温室効果ガス排出量

2019 年度の温室効果ガス排出量は、速報値は 794 万 t（前年度比▲1.5%）であった。

震災後、主に人口の増加や電源構成等の変化の影響により排出量は増加したが、近年は減少傾向になっている。

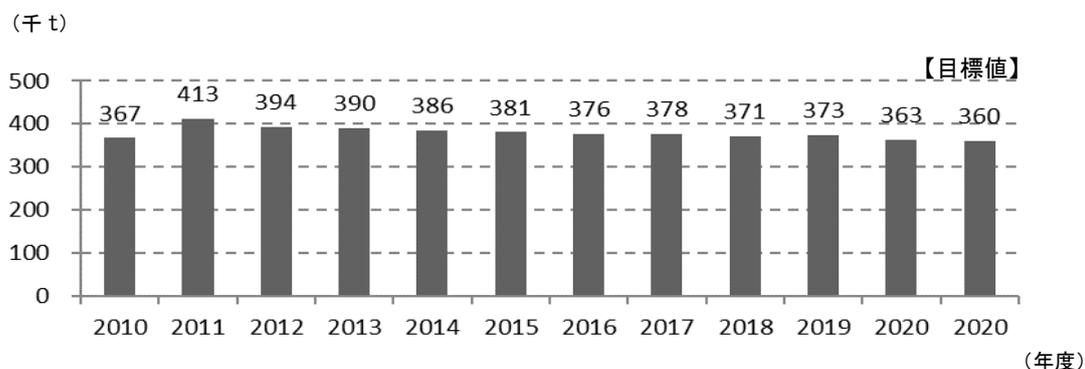


※新たな「杜の都環境プラン（2021-2030）」より、排出量の推計について、「温室効果ガス削減アクションプログラム」参加事業所の排出量の実績値の反映や推計に用いる統計資料・データ、排出区分の見直しを行っている。

### ② ごみの総量

2020 年度のごみの総量は 363,336t（前年度比▲2.7%）であり、新型コロナウイルス感染症の影響により外食控えや飲食店の時短営業等で事業ごみが大きく減少した。

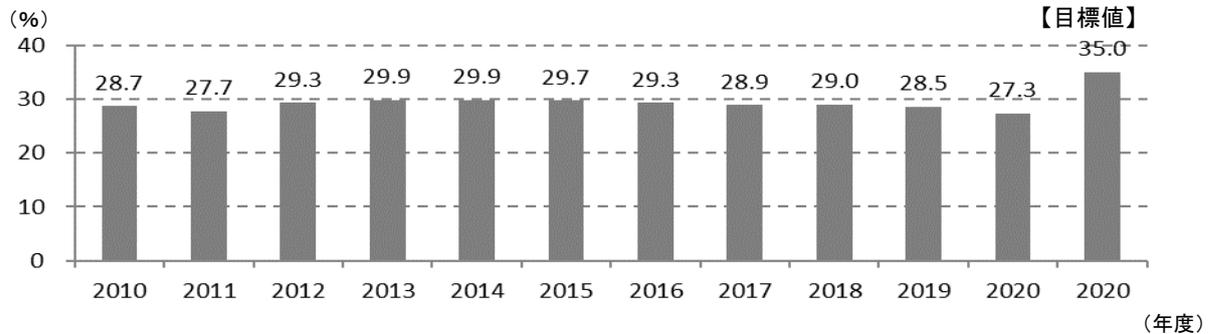
人口が増加傾向にある中で、ごみの総量は減少傾向となっており、震災前の水準までに戻りつつある。



### ③ リサイクル率

2020年度のリサイクル率は27.3%となった。

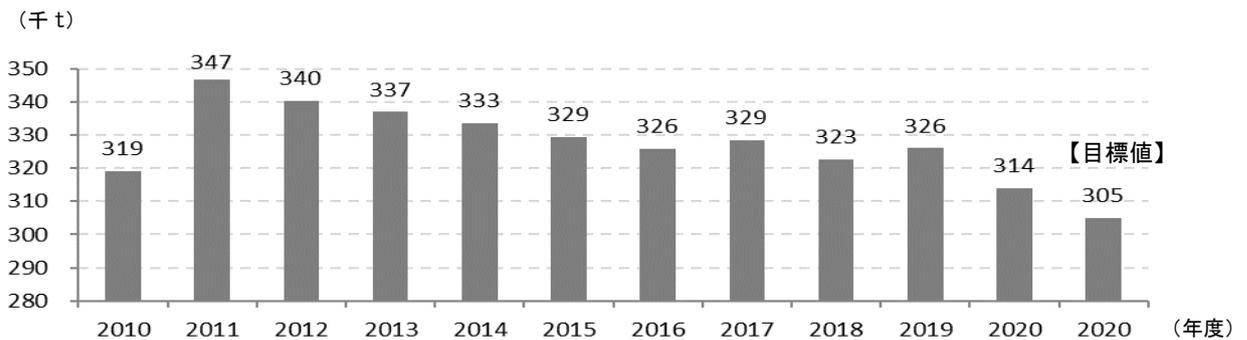
リサイクル率は、新聞・雑誌等の紙類の減少や、ペットボトルの軽量化、スチール缶・びん類の減少などの影響により目標値を下回って推移。



### ④ 燃やすごみの量

2020年度の燃やすごみの量は314,499t（前年度比▲3.5%）となった。

近年はごみの総量と同様、減少傾向で推移している。



### ⑤ みどりの総量（緑被率）

市域全域における緑被率は、2019年度の結果では78.4%となった。

開発事業等の郊外部における土地利用の影響により樹林地や農耕地が減少傾向、都市公園の整備や民有地緑化の推進等により草地が増加傾向にある。

	緑被率	内訳			
		樹林地	草地	農耕地	その他
2009年度	78.8%	65.6%	2.5%	9.3%	1.3%
2014年度	79.3%	65.3%	3.9%	8.9%	1.3%
2019年度	78.4%	64.9%	3.8%	8.5%	1.2%
増減 (2019-2009)	-0.4	-0.7	+1.3	-0.8	-0.1

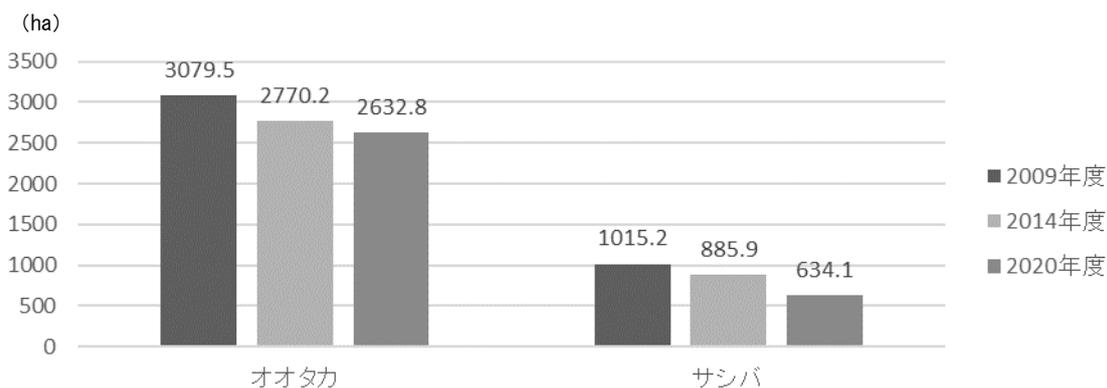
※緑被率とは、一定面積の土地の中で緑に覆われた土地面積の割合のことで、緑には樹林地や公園等の芝生、水田・畑等の農耕地及び河川・池沼等の水面も含まれます。

## ⑥ 猛禽類の生息環境

猛禽類の生息環境について、2020年度におけるオオタカ及びサシバの生息適地は、2009年度に比べて減少が見られた。

震災の津波により海岸林が消失したことや、郊外部における開発等に伴う樹林地の伐採等の影響が要因と考えられる。

都市計画区域におけるオオタカ・サシバの生息適地面積 (ha)

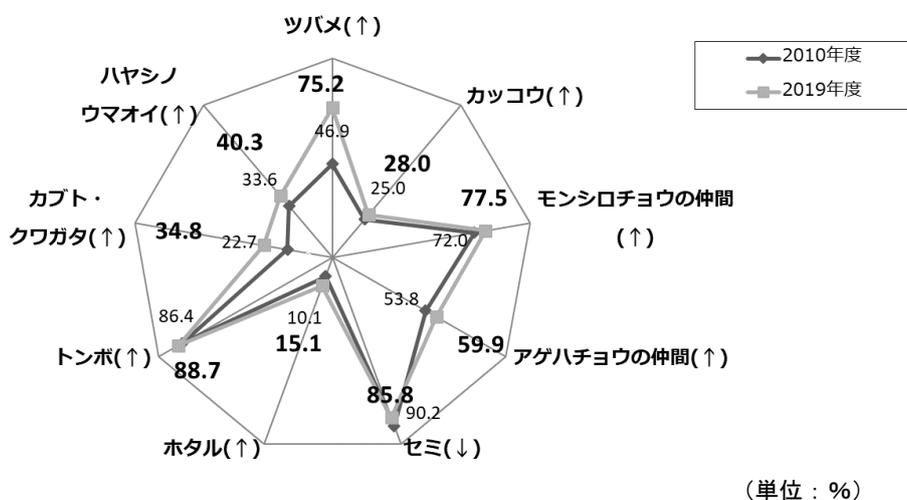


※生息適地面積とは、営巣地や採餌環境となる樹林地・農耕地の合計面積である

## ⑦ 身近な生きものの認識度

2019年度の生きもの認識度調査の結果は、2010年度(440.7%)と比較して9種合計で505.3%となり、64.6ポイント増加した。

親子を対象とした環境学習等の実施により市民の理解と関心が高まり、身近な生きもの認識度の向上に寄与しているものと考えられる。



## ⑧ 環境基準の達成状況

- ・ 大気環境については、光化学オキシダントを除き、市内 19 か所全ての測定局で環境基準を達成しており、おおむね良好な状態に保たれている。
- ・ 水環境については、全体として年々改善されている傾向にあるが、湖沼については、COD（化学的酸素要求量）や全磷、一部海域については COD の環境基準が達成されていない箇所があり、引き続き家庭や事業場における汚濁物質の削減の取り組みとともに、環境監視の必要がある。
- ・ 騒音については、自動車及び新幹線鉄道に関しては基準を達成していない箇所があり、引き続き、関係機関等による騒音低減対策等に取り組む必要がある。